

村山鋼材

14年9月期経常益4.1倍

売上高100億円台を回復

大手コイルセンター、村山鋼材（本社千葉県浦安市、村山和雄社長）の2014年9月期業績は売上高が前期比24・7%増の118億7100万円、経常利益が4・1倍の1億6500万円となり、増収増益を確保した。売上高は6年ぶりに100億円台を回復。販売単価の上昇と取扱数量の増加が寄与した。利益面では、自社販売、受託加工ともに増えた厚板部門と、入出庫量が高水準となった倉庫部門の両部門がけん引した。



村山社長

厚板・倉庫部門が伸長

厚板部門と薄板部門を合わせた取扱量は前期比10・0%増の25万7000トとなり、期

初計画の25万トを上回った。厚板を中心に主力のトラックや特装自動車向けが好調だった。

ほか、建設分野でも震災向けなどの出荷が伸びた。昨春に実施した浦安

工場への大型熱延レベライラインの集約効果も浸透。製販一体となった営業活動や、看板商品である「レーザー切断用鋼板」の板厚・板幅サイズを拡充したことも奏功し、厚板部門の増収増益につながった。

倉庫部門は新規顧客開拓や既存顧客からの受注拡大により、売上高が1・5倍に増加。一方、薄板部門は収益面で苦戦。メーカー値上げ分の価格転嫁が難航したこともあり、部門単体としては赤字となった。

ただ、一昨年に開設した西東京、北関東、神奈川の各営業所で販促活動を積極展開し、販売量は前期比2割近く増加しており、今期は採算改善を図りながら前期並みの販売量の維持に注力していくことで、全部門での黒字化を達成したい考えだ。

入出庫量が大幅に増えたことで、利益面でも大きく貢献した。前期からスタートした太陽光発電事業は順調に推移しており、赤字幅が想定よりも小さく、早期の黒字化が見込めると期待する。